

No.	14-1-1	場所	松川町生田	次世代への継承キーワード
名称	川岸の地すべりによる家屋の被災			地域コミュニティ / 避難路確保 / 情報伝達網整備
災害現象	地すべり			河川 天竜川本川
補足事項				支流

松川町生田地区の斜面は、風化すると砂状になりやすい花崗岩からできている。降り続く雨により、いたるところで斜面が崩れ落ち、屋根筋の集落を残して被害は全域に広がった。間沢川、寺沢川、福沢川に流れ込んだ土砂は谷沿いの水田を呑み込み、大きな土石流となって、下流の福与地域をはじめ、天竜川沿いの集落に大きな打撃を与えた。

●体験談：松川町史 災害日誌より一部抜粋

6月23日から降り続いた雨は27日にはいっそう激しさを増し、25日から27日までのわずか3日間の降雨量は生田（東平測定）では666ミリメートルに及んだ。生田地区の年平均降雨量が1400ミリメートルくらいであるから、実にその48パーセントほどの雨が3日間の内に降ったことになる。

生田の人々は降りしきる豪雨の中で消防団の協力を得ながら必死に防災に努めたが、自然の猛威に抗することはできなかった。道路は寸断され、橋は落ち、耕地・田畑は埋没あるいは流失し、家屋は一瞬のうちに押し流され、交通はまったく麻痺状態となった。山鳴りと濁流の音に脅え、電灯は消え、通信は途絶え、暗黒と不安のうちに数日間を過ごした。

生田地区の被害は段丘上に位置する部奈の平坦部を除く全域にわたった。各所に大規模な山崩れを生じ、河川は大氾濫し、橋梁のほとんどは押し流され、道路は文字どおり寸断された。

（「松川町史 第一巻 合併50年のあゆみ」より）

記 録



梅雨前線豪雨の三六災害で地滑りにより一瞬にして家屋を失った。

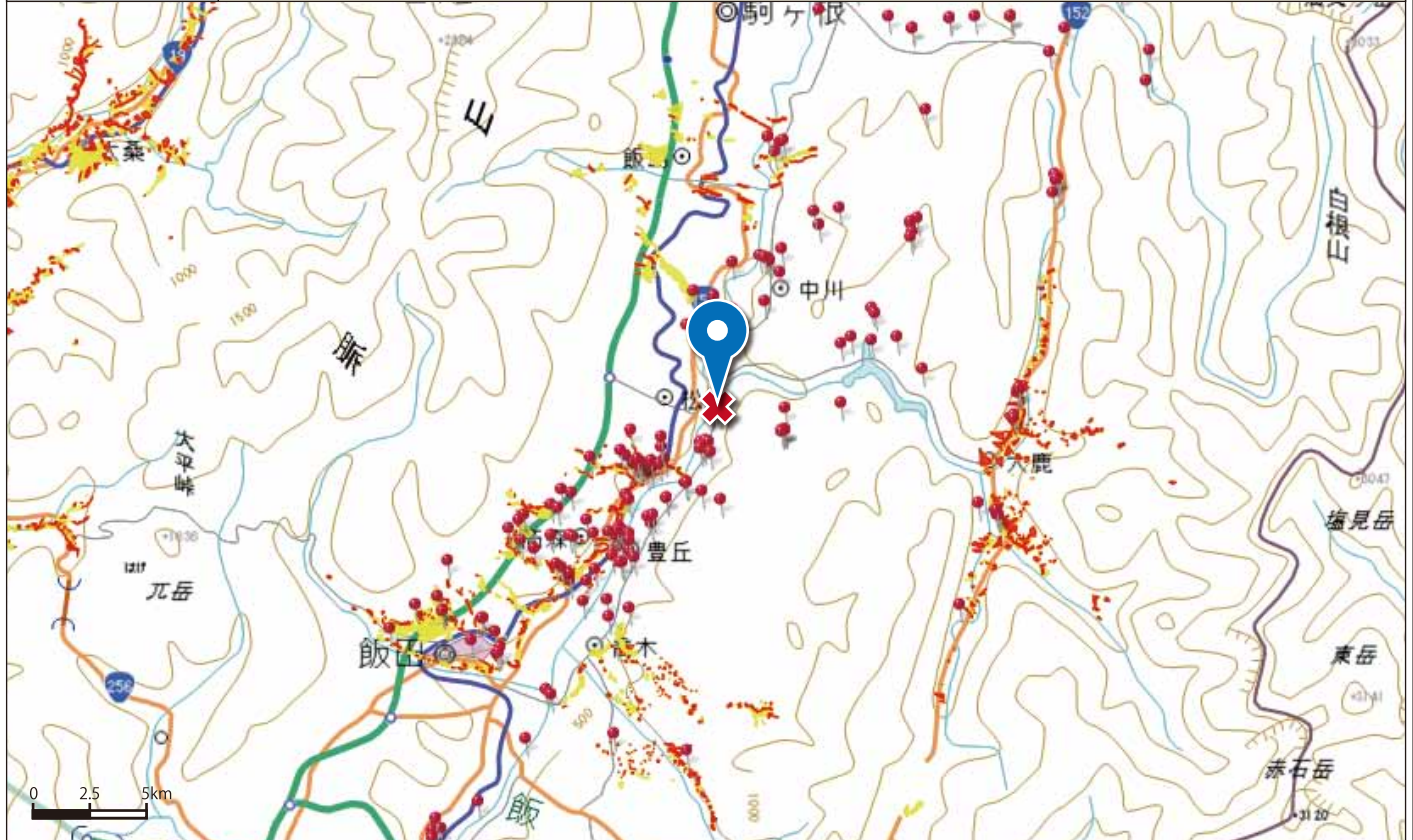
出典 「天竜川のあの頃」p.189 / 「松川町史 第一巻 合併50年のあゆみ」p.310

備考

No.	14-1-1	場所	松川町生田	緯度	35.598405
-----	--------	----	-------	----	-----------

名称	川岸の地すべりによる家屋の被災	経度	137.929525
----	-----------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。